

方言におけるノダ相当形式の対照研究

野田春美（神戸学院大学）

江口 正（福岡大学）

田附敏尚（神戸松蔭大学）

野間純平（島根大学）

本パネルセッションの構成

野田春美「本パネルセッションの趣旨と概要」 (20 分)

江口 正「ノダ相当形式にコンピュータが現れにくい方言—福岡県福岡市方言—」 (20 分)

田附敏尚「複数のノダ相当形式がある方言—青森県五所川原市方言—」 (25 分)

野間純平「ノのない方言における「ノダ文」

—山梨県早川町奈良田方言・島根県出雲市平田方言—」 (25 分)

ディスカッション (30 分)

上記以外の研究メンバーと担当地域

中田一志（大阪大学、山口県宇部市担当）

小西いずみ（東京大学、山梨県早川町奈良田・富山県富山市担当）

林 淳子（東京大学） 范 一楠（横浜国立大学）

※ 江口は大阪府大分市も担当、野間は大阪も担当。

本パネルセッションの趣旨と概要

野田春美（神戸学院大学）

1. 背景と目的

標準語のノダに相当する方言形式を取り上げ、異同を論じる。（便宜上、ノダ相当形式と呼ぶが、機能や性質には異なりが見られ、必ずしもノダと同じ機能をもつわけではない。）

1-1. 標準語のノダ（基本的に野田（1997）に基づく）

- ・「のだ」は文を名詞文の形にすることから、既に定まった事態として示す性質をもつ。

（1）[発話時の意志を述べる場合]

＊「じゃあ、私が {行きます／*行くんです}」

- ・否定などのスコープを広げ、事態の成立以外の部分を焦点にする機能がある。ただし、肯定で文末に現れる場合は、モダリティ形式としての性質も兼ねる。

（2）仕事で行ったんじゃない。遊びで行ったんだ。

- ・モダリティ形式としての用法は、[提示／把握] と関係づけの有無で4つに分けられる。

表 1 2つの軸によるモダリティのノダの分類

	提示（野田（1997）の対人的）	把握（野田（1997）の対事的）
関係づけ	状況や先行文脈の事情・意味を既定の事態として提示	状況や先行文脈の事情・意味を既定の事態として把握
非関係づけ	既定の事態として提示	既定の事態として把握

・把握の用法では、ダが必須である（野田（1993）（私信：井上優）、野田（1997））。

（3） あの人、来ないね。きっと忙しいん{んだ／??の}。

1－2. 方言のノダ相当形式に関する先行研究

・井上（2006）では、ノダ相当形式に、活用のある形式と、活用のない形式がある場合、活用のない形式の意味は実情説明（本発表の「提示」）に特化されることが指摘されている。井上（2006）は自身による富山県南砺市井波方言の観察と、松丸（1999）による京都方言の例、村田（2003）による宮崎方言の例を合わせて表2のようにまとめている。

表 2 井上（2006）による実情説明（本発表の「提示」）と実情理解（本発表の「把握」）

	共通語	京都市方言		井波方言		宮崎方言	
実情説明	のだ。	ネン。	ノヤ。	ガイ（ゲー）。		ト。	
実情理解						チャ。	

本発表ではコピュラの有無を重視し、コピュラを含むノダ相当形式と、含まないノダ相当形式がある場合、把握用法ではコピュラを含む形だけが使われることを、以下、「把握用法におけるコピュラの必須性」と呼ぶ。

1－3. 研究の目的

次の点を明らかにする。

- ①「把握用法におけるコピュラの必須性」の検証
- ②否定などのスコープは、ノダ相当形式で表されるか
- ③関係づけのほうが非関係づけよりノダ相当形式が使われやすいか
- ④既定性を表すノダの性質はノダ相当形式でも同じか
- ⑤そのほか、方言による違いはあるか

2. 調査項目

（小西ほか（2024）の調査票をもとに本研究用に改編。以下、本パネルセッションに関する項目のみ。）

〔平叙文のスコープの「の（だ）」〕（ただし、肯定文文末では提示や把握も兼ねる）

- 1・2（「太郎、来るんでしょ？」）太郎が来るんじゃないよ。花子が来るんだよ。
- 3・4（あの皿は）太郎が割ったんじゃないよ。花子が割ったんだよ。
- 5（「太郎、風邪ひいたらしいよ」）じゃあ、今日は太郎じゃなくて、花子が来るんだろう。
- 6（行事を中止して）雨が降ったからやめたんじゃないよ。
- 7（行事が中止になったと聞いて）きっと雨が降ったからやめたんだろう。

【疑問文】

- 8 (担当者が1人来ることになっていて) 今日は誰が来るの? (スコープ)
- 9 (担当者が1人来ることになっていて) 今日は花子が来るの? (スコープ)
- 10 どうして遅れたの? (スコープ+関係づけ)
- 11 雨が降ったから遅れたの? (スコープ+関係づけ)
- 12 (道で友達に会って) どこに行くの? (スコープ+関係づけ)
- 13 (道で友達に会って) 仕事に行くの? (スコープ+関係づけ)
- 14 (「きのうは遊びに行ったよ」) どこに行ったの? (スコープ)
- 15 (「きのうは遊びに行ったよ」) 新宿に行ったの? (スコープ)
- 16 (咳をしている人に) 風邪ひいてるの? (関係づけ)
- 17 (知人のお祝いの会に、知らない人が混じっていて) あの人、誰なの? (関係づけ)
- 18 (知人のお祝いの会に、知らない人が混じっていて)
あの人、あなたの知り合いなの? (関係づけ)
- 19 昨日の飲み会、行ったの? (非関係づけ)
- 20 (会合の後に皆で食事に行くことが急に決まったとき、一緒に行く一人に)
じゃあ、どこに行く? (ノダ無、判断)
- 21 (会合の後に皆で食事に行くことが急に決まったとき、一緒に行く一人に)
じゃあ、駅前の中華の店に行く? (ノダ無、判断)
- 22 (本の表紙について意見を聞くつもりで) この表紙、どう思う? (ノダ無、判断)
- 23 10年前に一緒に温泉に行ったこと、覚えている? (ノダ無、判断)

【関係づけ】

- 24 私、明日は来ないよ。(「なんで?」)
ちょっと用事があるんだ(よ)。 (提示、話し手の事情)
- 25 (「昨日、どうして来なかったの?」) 用事があつたんだ(よ)。 (提示、話し手の事情)
- 26 (「花子はどうしたの?」)
花子は今いないよ。[お客さん]に呼ばれてるんだ(よ)。 (提示、事情・知識)
- 27 (「花子はどうしたの?」)
さっき出ていくのが見えたから、たぶん買い物に行ってるんだ(よ)。
(提示、事情・発話時以前の推論)
- 28 (「花子はどうしたの?」)
あ、いないね。たぶん買い物に行ってるんだ(よ)。 (提示、事情・推論)
- 29 (「花子はどうしたの?」)
あれ、いないね。あ、そうだ。思い出した。花子は買い物に行ってるんだよ。
(提示、事情・思い出)
- 30 (大声を出している人に) おまえはいつもうるさいんだ(よ)。 (提示、一般化)
- 31 この店は木曜から土曜まで休みだよ。つまり、週に4日しか開いてないんだ。
(提示、換言)
- 32 (独り言で) あれ、花子がいらないなあ。たぶん買い物に行ってるんだ。(把握、事情・推論)

33 (独り言で) あれ、花子がいらない。あ、そうだった。思い出した。花子は買い物に行ってるんだ。(把握、事情・思い出し)

34 (「ここには誰も住んでいないよ」と言われて)
ふーん、空き家なんだ。(把握、聞き手からの情報の換言)

35 (建物も庭も荒れた様子の家を見て)
たぶん空き家なんだ。(把握、事情・推論)

〔関係づけと非関係づけの境界、把握における対人意識の有無〕

36 (友達の本棚を見て独り言で)
こんなにたくさん本があるんだ。(非関係づけ、把握、眼前の事態)

37 (友達の本棚を見て、友達に向かって)
こんなにたくさん本があるんだ。(非関係づけ、把握(対人意識)、眼前の事態)

38 (友達の本棚を見て独り言で)
こんなにたくさん本を読むんだ。(関係づけ、把握、推論)

39 (友達の本棚を見て、友達に向かって)
こんなにたくさん本を読むんだ。(関係づけ、把握(対人意識)、推論)

40 (テレビがつかない原因を探していて、独り言で)
あ、コンセントが抜けていたんだ。(関係づけ、把握、眼前の事態～推論)

41 (友達とテレビがつかない原因を探していて)
あ、わかった。コンセントが抜けていた {んだ／んだよ}。
(関係づけ、把握(対人意識)、眼前の事態～推論)

〔非関係づけ〕

42 (さぼったんだろうと言われて) 違うんだ。誤解だよ！ (提示、聞き手と異なる認識)

43 (電車に乗る前に、子どもに)
電車の中では静かにする {の／んだ／んです} よ。(提示、典型的な教示)

44 赤いライトが点いたら、このスイッチを押す {んだ／んだよ／のよ}。
(提示(命令・教示的)、矛盾非考慮・非即時)

45 さあ、このスイッチを押すんだ！ (提示(命令)、矛盾非考慮・即時)

46 何をしている。早くスイッチを押すんだ。(提示(命令)、矛盾考慮・即時)

47 じゃあ、次回は赤いライトが点いたらこのスイッチを押すんだよ↑。
(提示(命令)、矛盾考慮・非即時)

48 そんなこと言うんじゃない。(提示(禁止))

49 (親に向かって) 僕、今日は絶対徹夜するんだ。(提示、意志の表明)

50 (独り言で) 今日は絶対徹夜するんだ。(把握、意志の自己確認)

51 (唐突に) 実は私、留学するんだ。(「え？ いつから？ どこに？」)(提示、話題冒頭)

52 あ、思い出した。今日は花子が来る {んだ／んだった}。(把握、想起ノダ・ノダッタ)

53 こんなことなら、早く出発するんだった。(把握、後悔ノダッタ)

54 あの時、あんなこと言うんじゃないかった。(把握、後悔ンジャナカッタ)

55 こんなことなら、早く出発するんだった。(把握、後悔ノダッタ)

4. 調査結果の概要

表3 対照の概要（発表対象に下線）

	標準語	準体助詞（+コピュラ）	準体助詞+コピュラ その他の形式 が併存	準体助詞なし
ス コー プ	ノ	ト（福岡） ガダ（富山） ソ（ジャ）・ホ（ジャ）（宇部） ンヤ・ンジャ（大分）	ンダ・ンズ（五所川原） ンヤ・ネン（大阪）	ドー（奈良田） <u>ダナイ否定のみ</u> （平田）
提 示	ノダ ノ	ト（福岡） ガ（富山） ソ（ジャ）・ホ（ジャ）（宇部） ンヤ・ンジャ（大分）	ンダ・ンズ（五所川原） ンヤ・ネヤ・ネン（大阪）	ドー（奈良田） <u>ダ限定的（平田）</u>
把 握	ノダ	トタイ（福岡） ガダ（富山） ンジャ（宇部） ンヤ・ンジャ（大分）	ンダ（五所川原） ンヤ・ネヤ（大阪）	ドー・ヅラ （奈良田） <u>ダ（平田）</u>
疑 問	ノ ノデスカ	ト（福岡） ガ（ケ）（富山） ソ（カ）・ホ（カ）（宇部） ン（カ・カエ）（大分）	ンズ（+ガ・ナ）ンダガ・ ンダナ（五所川原） ン（カ）・ネン（詰問） （大阪）	<u>〇（カ）、ヅラ（カ）、</u> <u>ラ（カ）（奈良田）</u> <u>ダ（限定的）（平田）</u>

① 「把握用法におけるコピュラの必須性」の検証と関連する問題

準体助詞をもつ方言では基本的に、その傾向がある。ただし、コピュラではなく終助詞が必須となる方言もある（⇒江口発表）。また、五所川原市方言では提示でコピュラを含まない形（ンズ）が使えない場合がある（⇒田附発表）。一方、大阪方言では把握用法（事情の思い出し）でコピュラを含まない形（ネン）が使える場合がある。

33（独り言で）

あれ、花子がいけない。あ、そうだった。思い出した。花子は買い物に行ってるんだ。

イッテンネン（大阪）

準体助詞のない方言では、提示用法でコピュラが現れるかは方言による（⇒野間発表）。

36-41 で、把握用法において対人意識の有無によってノダ相当形式の使用に違いがあるかを見たが、明らかな違いはなかった。把握用法で対人意識のある文は「こんなにたくさん本を読むの？」といった疑問文と連続するため、その観点からの考察もさらに必要である。

38（友達の本棚を見て独り言で）／39（友達の本棚を見て、友達に向かって）

こんなにたくさん本を読むんだ。

（38・39 いずれも） ヨム {ンダ／*ンズ} 〈五所川原〉

②否定などのスコープは、ノダ相当形式で表されるか

スコープの項目は7方言（準体助詞をもたない平田方言以外）でノダ相当形式が使われる。

1（「太郎、来るんでしょ？」）太郎が来るんじやないよ。花子が来るんだよ。

クルツチャナカ〈福岡〉

③関係づけのほうが非関係づけよりノダ相当形式が使われやすいか

標準語でノダ文の典型とされやすい関係づけ・提示の平叙文は、24・25は8方言すべてで、26～31は準体助詞をもつ6方言すべてでノダ相当形式が使われている。

24 私、明日は来ないよ。（「なんで？」）ちょっと用事があるんだ（よ）。

アルンズ〈五所川原〉

非関係づけではノダ相当形式の使用は項目による。8 方言で使用が見られるのは、既定性を明示する必要性が高いと考えられる次のような項目である。

44 赤いライトが点いたら、このスイッチを押す {んだ／んだよ／のよ}。（教示的・非即時）

オスドーヨ〈奈良田〉

52 あ、思い出した。今日は花子が来る {んだ／んだった}。（想起）

クル {ンヤ・ンジャ／ンヤッタ・ンジャッタ}〈大分〉

55 こんなことなら、早く出発するんだった。（後悔）

デルダッタ〈平田〉

一方、非関係づけで多くの方言でノダ相当形式が使われない項目は次のようなものである。

46 何をしている。早くスイッチを押すんだ。（命令・即時）

50（独り言で）今日は絶対徹夜するんだ。（意志の自己確認）

46ではノダ相当形式より命令形などが選ばれやすい可能性がある。50も、そもそも標準語でノダがどの程度使われるのかに疑問が生じる。方言の調査結果から、標準語のノダについても各用法の使用状況などを見直す必要があることが示唆された。

④既定性を表すノダの性質はノダ相当形式でも同じか

その場での判断を問う、標準語でノダを用いない疑問文（20-23）では、ノダ相当形式も用いられないこと、教示や想起・後悔のように既定性の明示が重要な文（③参照）ではノダ相当形式が用いられやすいことなどから、基本的には標準語と共通していると考えられる。

⑤そのほか、方言による違いはあるか

名詞述語文でノダ相当形式が現れにくい方言がある。（⇒江口発表、野間発表）

準体助詞のない方言では、疑問文でノダ相当形式と対応しにくい。（⇒野間発表）

参考文献（全体に関連するもののみ）

井上優（2006）「第4章 モダリティ」佐々木冠・渋谷勝己・工藤真由美・井上優・日高水穂

『シリーズ方言学2 方言の文法』岩波書店, pp. 137-178

小西いづみほか（2024）「日琉方言の準体形式:調査票とデータ集」

<https://doi.org/10.5281/zenodo.10849165>

野田春美（1993）「「のだ」と終助詞「の」の境界をめぐる」『日本語学』12-11, 明治書院, pp. 43-50

野田春美（1997）『「の（だ）」の機能』くろしお出版

松丸真大（1999）「京都市方言における「ノヤ」「ネン」の異同」『阪大社会言語学研究ノート』1, pp. 61-73

村田真美（2003）「宮崎方言の「チャ」と「ト」」『阪大日本語研究』15, pp. 109-129

付記 本パネルセッションは科学研究費補助金基盤研究（C）「ノダと方言におけるノダ相当形式の対照研究」（課題番号 22K00598、代表者：野田春美）による成果の一部である。